

R3 年度～R4 年度 社会文教委員会の活動

1 管内視察

※ 飯田市内の委員会関連施設等を視察。毎年4月～5月に実施

○R3年度

新型コロナ集団接種会場、耐震化大規模改修事業（認定こども園ビバチャイルド）、
鼎図書館移転事業、よつて館天龍峡、ICT推進教育事業及びエアコン、トイレ（三
穂小学校）、文化財保護活用課移転事業（上郷考古博物館）、史跡恒川官衙遺跡

○R4年度

地域福祉推進事業（南信濃福祉の里事業）、放課後子ども教室設置運営事業（遠山郷
子ども広場）、恒川史跡公園清水エリア、文化会館耐震補強事業（舞台裏、壁等）、信
州大学教職大学院南信州サテライトキャンパス

2 管外視察

※ 飯田市外で調査研究活動に関連する自治体施策等を視察。
毎年6月～7月に実施

○R3年度

コロナ禍の影響により中止

○R4年度

千葉県柏市「フレイル予防事業」

「長寿社会のまちづくり ～豊四季台プロジェクト～」

東京都北区「あるきたポイント事業」

東京都東大和市「東大和元気ゆうゆうポイント事業」

3 行政評価

※ 政策、施策及び事務事業について妥当性、達成度や成果を判定
する取り組み

※ 飯田市議会は7月から9月にかけて、総合計画「いいだ未来デザ
イン2028」にかかる基本目標と事務事業を評価している

※ 基本目標13のうち半数の7つが当委員会の所管分となり、令和
4年度はそのうち3つの基本目標について評価した

基本目標 5 「文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる」

→ 概ね妥当。生徒数減少に伴う部活動の存続や地域移行といった今後の部活動のあり方が課題となっている

基本目標 7 「『市民総健康』と『生涯現役』をめざす」

→ 概ね妥当。市民自ら健康づくりに関心を持ち行動することが大切である。
フレイルの周知など市民の意識づくりが必要である。

・高齢者健康づくり事業

→ 「フレイル」の意味や考え方を広く市民に知ってもらう方法を検討し、戦略的な周知に努められたい。

→ 自身の健康維持に対するインセンティブ提示などを検討されたい。

基本目標 8 「共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる」

→ 概ね妥当。“地域コミュニティのあり方”が目標達成に大きな影響を与える。コロナ禍が地域コミュニティに与えた影響は大きく、まずは実態把握と対策が求められる。

・重層的支援体制整備事業

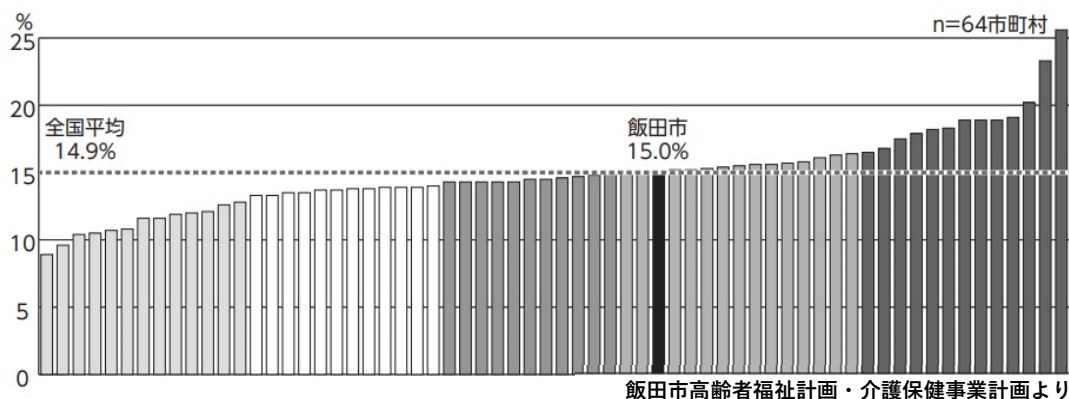
→ 初年度としては妥当であり、評価できる。令和3年度において関係組織と連携し「福祉まるごと相談窓口」を開設して個々の相談者に適切に対応したことを評価する。

参考資料

フレイルあり割合（全年齢）

以下の25項目のうち8項目以上が当てはまる人の割合。

①バスや電車を使って1人で外出できない ②自分で食品・日用品の買い物ができない ③自分で預貯金の出し入れができない ④友達の家を訪ねることがない ⑤家族や友だちの相談に乗ることがない ⑥階段を手すりつたわずらわず昇ることができない ⑦椅子からつかまらず立つことができない ⑧15分位続けて歩くことができない ⑨過去1年で転んだ経験が1度または何度もある ⑩転倒に対して不安である ⑪6か月間で2～3kg以上体重減少 ⑫身長・体重 (BMI) が18.5未満 ⑬半年前より固いものが食べにくい ⑭お茶や汁物等でむせることがある ⑮口の渇きが気になる ⑯外出する頻度が月に1～3回またはそれより少ない ⑰昨年より外出の回数が減っている ⑱いつも同じことを聞くなどいわれる ⑲自分で電話番号を調べて電話しない ⑳今日が何月何日かわからないことがある ㉑（ここ2週間）充実感が少ない ㉒（ここ2週間）楽しめなくなった ㉓（ここ2週間）おっくうに感じられる ㉔（ここ2週間）役に立つと思えない ㉕（ここ2週間）わけもなく疲れる



飯田市高齢者福祉計画・介護保健事業計画より